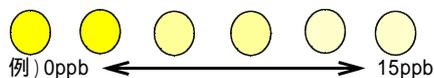
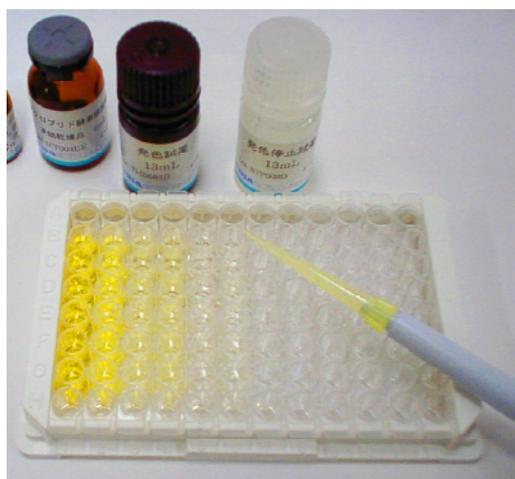
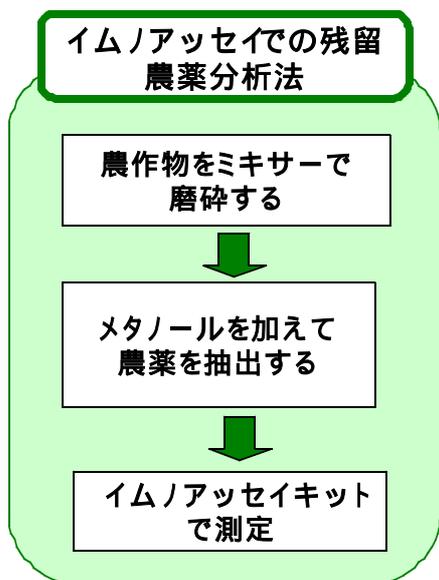


イムノアッセイによる葉菜・根菜の 残留農薬分析法

国産のイムノアッセイ*キットの開発が進み、分析できる農薬の種類が飛躍的に増加しました。そこで、約40種の農薬について、ネギ、ホウレンソウ、ブロッコリー、コマツナ、ニンジン、ダイコンなど、埼玉県の主要作物の残留農薬を安定的に測定する分析法を確立しました。

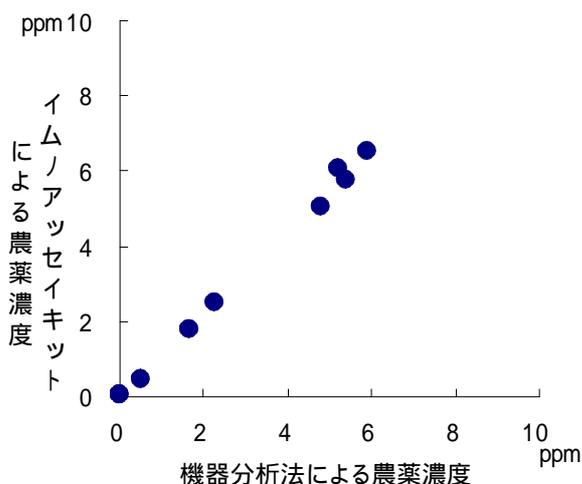
この方法により、出荷前の農産物の残留農薬を、簡単な手順と器具で、短時間で安価に分析できるので、生産現場で活用されています。

注) *イムノアッセイ：抗原抗体反応を利用した分析法、抗原と抗体の高い特異性を利用し、試料中の微量な成分を検出、定量することができます。



分析に要する時間は、
おおむね3～3.5時間
〔機器分析では約3～4日〕

抽出液に試薬を加えると、抗原（農薬）の量によって色が変わります。
（色が薄い方が農薬濃度が薄い）



抗原抗体反応のじゃまをする物質が含まれる作物についても、試料調製法を確立しました。

約40種の農薬と本県主要葉菜・根菜の組み合わせで、機器分析法と同じ結果が得られるようになりました。

ホウレンソウの残留農薬濃度
(イミダクロプリドの測定)

(農林総合研究センター 農産物安全性担当 TEL 0480-21-1113)